

## 素材系、機械系、電力の3つの事業を柱に 将来の成長に向けた取組みも 進めてまいります。

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

当社グループは、後述の「業績のご報告」でもご説明しておりますとおり、当上半期においては、おかげさまで、経常利益461億円を計上することができました。この業績を踏まえて、今期中間配当につきましては、1株あたり2円とさせていただきます。株主の皆様にはご理解を賜わりたいと存じます。

さて、現在、当社グループは、2013年～2015年を「経営基盤の再構築」と「収益の『安定』と事業の『成長』に向けた布石」を打つ期間と位置付け、素材系、機械系、電力の3つの事業を柱とした当社独自の複合経営の強化に取り組んでおり、計画は着実に進捗しております。

代表取締役社長

川崎博也



素材系事業では、自動車分野でのグローバルな需要を捕捉するべく、自動車サスペンション用アルミ鍛造部品の日米中3拠点生産体制を増強するとともに、自動車用アルミパネル材、高張力鋼板でも海外での生産拠点の整備に着手しております。

また、今後ますます需要が高まると予測される自動車の軽量化に対応すべく、鉄鋼、溶接、アルミ・銅など幅広く素材を扱う当社グループの強みを活かして、鉄とアルミを組み合わせることで強度と軽量化を両立させたバンパーといった複合材料の開発など、将来に向けた取組みも進めております。

機械系事業では、欧米市場に再参入したコベルコ建機がシェアを順調に回復させているほか、非汎用圧縮機の販売・サービスの拠点をブラジルに設置するなど、世界の

主要マーケットをカバーする体制の確立に取り組んでおります。

また、当社の強みとする圧縮機の技術を活かして、燃料電池車の普及に伴い必要とされる水素ステーション向け圧縮機とその関連技術や、これまで活用されてこなかった低温の熱源を利用して発電するバイナリー発電装置などのさらなる開発と拡販を進めております。

安定収益基盤と位置付ける電力供給事業においても、栃木県真岡市のガス火力発電所計画や、神戸製鉄所高炉跡地での石炭火力発電所計画を進めております。

プは、上記のような取組みを通じて、安定した収益基盤の構築と将来への成長に向けて全力で取り組むとともに、安全・安定操業・コンプライアンスを徹底し、企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年11月

外部環境はめまぐるしく変化しておりますが、当社グループ

## 業績ハイライト(連結) (表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

